

B型肝炎母子感染防止事業の実態に関する研究
(分担研究： B型肝炎母子感染防止に関する研究)

衛藤 隆*

要約： 本事業を実施する自治体へ郵送法による質問紙調査を行った。回答のあった自治体では妊婦の93.4%がHBs抗原検査を受けており、HBs抗原陽性率は1.4%、キャリアのHBe抗原陽性率は23.4%、新生児の3.9%、乳児の2.5%でHBs抗原陽性、第4回ワクチンの接種率は第3回接種後検査受検者中の25.2%であった。

見出し語： B型肝炎、B型肝炎母子感染防止事業、全国調査

研究方法： 全国47都道府県および54の政令市・特別区（以下「自治体」）に調査票を郵送し、各自治体における昭和62年1月1日より9月30日までの9ヵ月間の本事業に関わる各検査の受検者数、各処置の被投与者数・被接種者数等についての回答を得、分析・検討した。

結果： 回収率は都道府県(41/47, 87.2%)、政令市・特別区(87/101, 85.2%)で、合計すると86.1%であった。

HBs抗原検査の対象となる全ての妊婦を妊娠届出数でとらえ、受検者数と比較してみると、93.4%が受検していることが推

定された。妊婦のHBs抗原陽性者数を把握している自治体は87の内の70自治体(81%)であった。妊婦HBs抗原陽性率は1.4%であり最高は4.0%、最低は0.7%であった。また、HBs抗原陽性と判明した妊婦におけるHBe抗原陽性率は23.4%であり、最高は50%、最低は8%であった。陽性者数を把握している自治体数は75(86%)であった。

新生児のHBs抗原検査は全ての自治体で実数が把握されており、陽性者数については69自治体(79%)にて把握されていた。陽性率は3.9%であった。

乳児HBs抗原陽性者数は67自治体(77%)で把握されており、陽性率は2.5%であった。

第3回B型肝炎ワクチン接種後にHBs抗原・抗体検査を実施して集計している自治体数は34(39%)で、第4回目のワクチンまで行っているのは32自治体(37%)であった。第3回ワクチン後の検査を受けた者のうち、第4回ワク

* 国立公衆衛生院母子小児衛生学部
(Dept. of Maternal and Child
Health, the Institute of Public
Health)

表1 B型肝炎母子感染防止事業実態調査の結果 (S.62.1.1~9.30, 全国)

(妊婦)		
A. 妊娠届出数	646,449 (634,786)* ¹	
B. HBs抗原受検者数	786,233 (592,627)* ¹ (633,788)* ²	妊婦HBs抗原検査受検率: 93.4%
C. HBs抗原陽性者数	9,085	妊婦HBs抗原陽性率: 1.43%
D. HBe抗原受検者数	10,952 (9,482)* ³	
E. HBe抗原陽性者数	2,216	妊婦HBe抗原陽性率: 23.4%
(新生児・乳児)		
F. 新生児HBs抗原受検者数	2,366 (1,921)* ⁴	
G. 新生児HBs抗原陽性者数	75	新生児HBs抗原陽性率: 3.9%
H. 第1回HBIG被投与者数	2,316	
I. 乳児HBs抗原受検者数	2,239 (1,769)* ⁵	
J. 乳児HBs抗原陽性者数	44	乳児HBs抗原陽性率: 2.5%
K. 第2回HBIG被投与者数	2,303	
L. 第1回ワクチン接種者数	2,304	
M. 第2回ワクチン接種者数	2,237	
N. 第3回ワクチン接種者数	1,982	
O. 第3回ワクチン後検査受検者数	341 (294)* ⁶	
P. 第4回ワクチン接種者数	74	第4回ワクチン接種率: 25.2%

*1 妊娠届出数、HBs抗原検査受検者数が共に把握されているものの数

*2 HBs抗原陽性者数が把握されている自治体におけるHBs抗原受検者数

*3 HBe抗原陽性者数が把握されている自治体におけるHBe抗原受検者数

*4 新生児HBs抗原陽性者数が把握されている自治体におけるHBs抗原受検者数

*5 乳児HBs抗原陽性者数が把握されている自治体におけるHBs抗原受検者数

*6 第4回ワクチン接種者数が把握されている自治体における第3回ワクチン後検査受検者数

チンの接種を受けた者の割合は25.2%であった。

考察: 本調査の対象期間は乳児に関する

事業が開始され1年が経過してからのものであり、全ての自治体において本事業が実施されており、昨年度の調査に比較して対象者の把握率は上昇しているはずである。今回の調

査から得られた妊婦HBs抗原検査受検者数から、回収率、調査期間を考慮して1年当りの受検者数を推定し、これが妊娠届出総数にしめる割合を求めてみると約65%となるが、調査による把握率は93.4%である。

妊婦のHBs抗原陽性率、キャリア妊婦のHBe抗原陽性率は、昨年度の調査結果では各々1.5%、26.3%であったが、本年度もほぼ同様であり、HBe抗原についてはやや低下している傾向がうかがえた。

同様に、新生児HBs抗原陽性率、乳児HBs抗原陽性率は、昨年度2.8%、1.6%で本年度の結果はやや高くなっていった。新生児期については、臍帯血の検査陽性のため新生児血を検査した場合に二重に数えられることが考えられ、実際にこの時期に予防対象外となる者の率はこれほど高くはないのではないと思われる。横断的な調査なので、各検査・処置を受けた者の総数を相互に比較することは正しくないが、調査期間が等しく、全国規模の集計なので、おおまかな見当をつけるため、新生児・乳児に対する各処置を受けた人数の新生児HBs抗原検査受検者数に対する割合でみてみた。この結果は、第1回HBIG 97.9%、第2回HBIG 97.3%、第1回ワクチン 97.4%、第

2回ワクチン 94.5%、第3回ワクチン 83.8%となり、第3回ワクチン接種を受ける者がそれ以前の処置に比較し、やや少なくなる傾向が見られた。

第3回ワクチン後の検査を受けた者のうち、第4回目のワクチン接種を受けた者は、昨年度の30.3%よりやや下がり、25.2%であった。しかし、これら全てがワクチンに対する無反応者であったのかは不明であり、一部低反応者を言っている可能性もある。

今回の調査で回答が得られた自治体の中で必ずしも全ての自治体において各検査の陽性者数を把握しているわけではなく、今後継続的に本事業の実態を追跡することを考えると、各自治体に対し理解と協力を求めてゆく必要がある。

終りに、本研究の調査に御協力いただいた、都道府県、政令市、特別区の職員の方々に謝意を表します。

文献

- 1) 衛藤 隆：B型肝炎母子感染防止事業実態調査：昭和61年度厚生省心身障害研究「マスキングに関する研究」報告書 202-204, 1987.

Abstract

Actual Condition of the Nationwide Prevention Program of Perinatal HBV Infection
Takashi Eto*

Actual numbers related to this program were asked to each local government by a mail questionnaire. HBSAg were positive in 1.4% of pregnant women. HBeAg positive rate in HBV carrier pregnant women was 23.4%. Babies born to both HBSAg and HBeAg positive mothers were prevented. 3.9% of these neonates and 2.5% of infants were HBSAg positive. Though sample size was small, 25.2% needed one more vaccination.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:本事業を実施する自治体へ郵送法による質問紙調査を行った。回答のあった自治体では妊婦の93.4%がHBS抗原検査を受けており、HBs抗原陽性率は1.4%、キャリアのHBe抗原陽性率は23.4%、新生児の3.9%、乳児の2.5%でHBs抗原陽性、第4回ワクチンの接種率は第3回接種後検査受検者中の25.2%であった。